



しばた議会だより



ア〜ラ
よつと♪

しばた桜まつり開幕式(西船迫保育所の子どもたち)

- 柴田の桜、どう活かし、どう生かすか 2・3
 - 平成24年度当初予算
- 総括質疑 4
- 予算審査特別委員会 5〜7
- 介護保険料を値上げ 介護保険条例を改正 8〜9
- 議案に対する賛否・議会の出欠状況 9
- 住民とともに政策条例を議員提案
「柴田町男女共同参画推進条例」を可決 10
- 一般質問 11〜18
- 常任委員会レポート 19
- あなたの一言 (稲荷祐子^{いなり ゆうこ}さん) 20

かし、どう生かすか

算を含む一般会計 122 億円の当初予算を賛成多数で可決、賛否は分かれる



平成 24 年 3 月議会は 3 月 5 日から 15 日の日程で開かれ、平成 24 年度一般会計 122 億円をはじめ、国民健康保険事業特別会計予算、公共下水道事業特別会計予算、介護保険特別会計予算、後期高齢者医療特別会計予算、水道事業会計予算をそれぞれ賛成多数で可決しました。

一般会計当初予算の審議では、(仮称)さくら連絡橋設計予算をめぐって議論になり、採決では賛成 12、反対 4 で賛否が分かれました。

反対討論

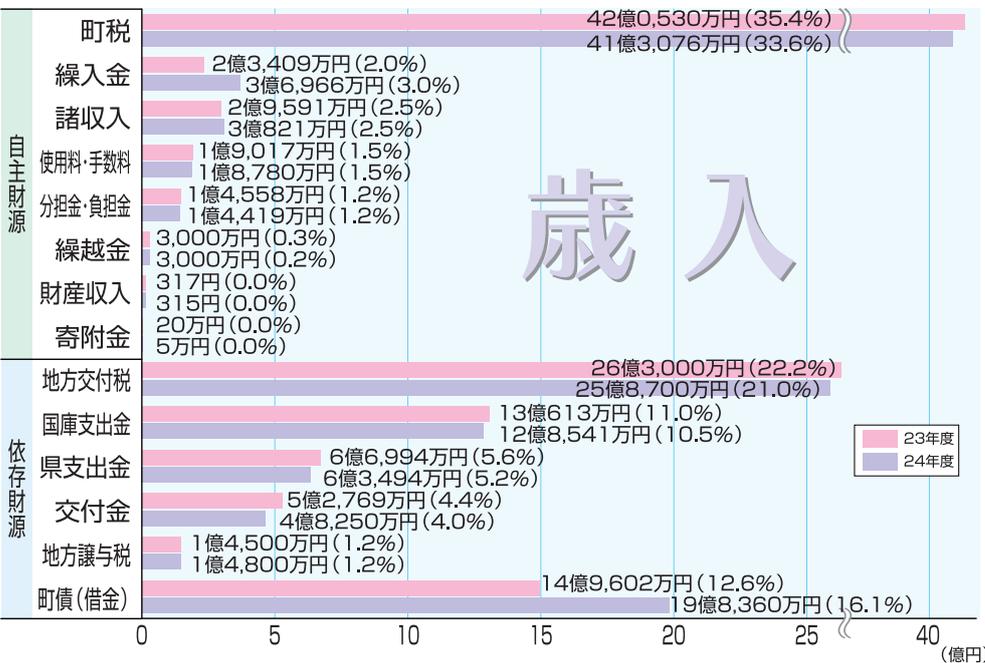
白内恵美子 議員

(仮称)さくら連絡橋に反対する。理由は執行部が説明責任を果たしていないこと、住民から「生活に関わる事業や子育て教育を優先すべき」と反対の声が上がっているため。景観を壊す橋よりも桜の育成に力を入れるべき。

賛成討論

大坂三男 議員

歳入は妥当な見込み額を計上。歳出面ではデマンド交通、子ども医療費助成拡大、放射能対策等の新規事業にもバランスよく配分。(仮称)さくら連絡橋予算は有利な補助事業で有為な町民の財産となり地域の震災復興にも貢献する。



各会計の当初予算額

会計区分	平成 24 年度	平成 23 年度	
一般会計	122 億 9,528 万円	118 億 7,918 万円	
特別会計	国民健康保険事業	39 億 203 万円	36 億 9,366 万円
	公共下水道事業	13 億 4,172 万円	15 億 402 万円
	介護保険	21 億 9,414 万円	21 億 6,880 万円
	後期高齢者医療	3 億 3,577 万円	3 億 215 万円
水道事業会計	13 億 5,468 万円	13 億 6,503 万円	
予算総額	214 億 2,364 万円	209 億 1,287 万円	

※端数切り捨て表示のため、各会計の合算額と予算総額は合致しない。

柴田の桜 どう活

(仮称)さくら連絡橋設計予

(仮称)さくら連絡橋をめぐる経過  (仮称)さくら連絡橋とはこれまでも構想が示されていた船岡城址公園の縦の木付近と白石川の土手を結ぶ跨線橋で、一目千本桜から観光客の流れを船岡城址公園に向けるとして示されているものです。昨年度予算で調査費用が計上され、また国の社会資本整備総合交付金事業の認可を受け、今年度予算で設計費用8千万円が計上されました。



反対討論

広沢 真議員

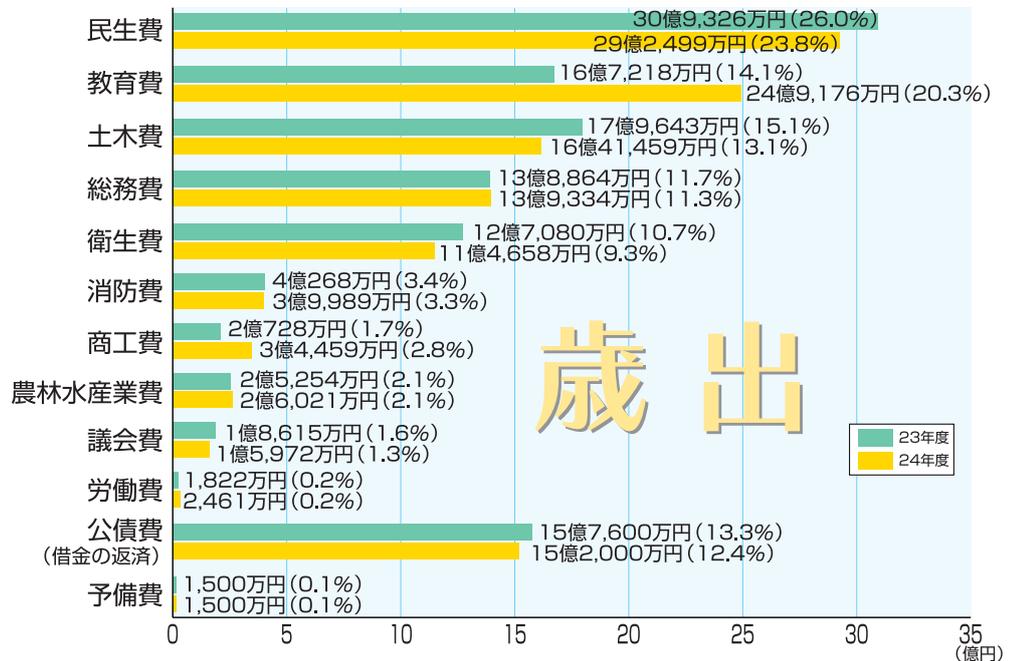
一般会計予算案の中で(仮称)さくら連絡橋設計予算にかかわって観光客の誘致の前に、柴田町の宝である桜の育成を優先させるべきである。予算案では植物の特性を考慮した桜の育成策が含まれていない。

賛成討論

森 淑子議員

歳入は前年度比^対1.8%増、地方交付税は前年度比^対1.6%増と無理のない数字であり、歳出はデマンド交通事業、西住・槻木地区の冠水対策、放射能対策事業、家庭児童相談員配置等、各分野に配慮した予算編成となっている。

歳出



総括質疑



平間奈緒美 議員

問 減収が平成24年度の財政運営に影響があるのか

- (1) 町税の減収が平成24年度の財政運営上影響されるのではないかと。町民生活の安定性・利便性を向上し、生活基盤整備に、より一層力を入れるべきではないか。
- (2) 社会資本総合整備事業の進捗状況や今後の
- (3) 町税の減収は予算編成上厳しい状況だが、大型事業の予算が組めた。
- (4) 大陽の村交流拠点再生計画の取り組みは。
- (5) 世代を超えた交流が活発になるような環境づくりの考えは。
- (6) 町をPRするイメージキャラクターの役割は重要。今後の展開はいかに。

答 一定の戦略的投資は十分可能

- (1) 町税の減収は予算編成上厳しい状況だが、大型事業の予算が組めた。
- (2) 限られた財源を最大限有効に活用し、生活環境の整備を進めていく。
- (3) 船岡城址公園の擁壁工事、新栄4号公園整備や歴史ボランティアの育成ワークショップを実施している。ハード事業・ソフト事業両面を進めていく。
- (4) 学校施設の整備を優先させているため、取り組みが遅れている。
- (5) 世代間交流がさらに広がるよう進めていく。
- (6) 町内外の各種イベントで活用し、「花のまち柴田」をアピールする。

問 財源は十分確保できているか

- (1) 通常分と東日本大震災分として二本立てで配分される今年度の地方交付税はどうなるか。
- (2) これまで続いてきた地方交付税の上乗せ措置は新たに地域基盤強化・雇用対策費に統合されたが柴田町の配分はどうなるか。
- (3) 必ず負担しなければならぬ義務的経費を差し引いて、十分な事業を行える経費が確保できているか。
- (4) 緊急防災・減災事業の活用、特に緊急防災・減災事業債の活用は。
- (5) 町税収入は減収になることはないのか。

答 バランスの取れた財政運営で確保する

- (1) 基準財政需要額では大きな変動はないが、基準財政収入額のプラス変動があるので前年比2.4割減、23億8千万円になる。
- (2) 大きな変動はない。
- (3) 義務的経費が減少傾向で、特に公債費が減少している。新規事業に取り組める幅は広
- (4) デジタル防災無線設置事業で活用している。
- (5) 大震災による失業者の増加など、減収も予想されるが、ある程度幅を持って予算計上しているため大勢に影響はない。

総括質疑



広沢 真 議員

総括質疑



水戸義裕 議員

問 農林費予算構成比2割以下では少ない

- (1) 今年を未来への投資元年とし、種々の新規や継続事業が実施される中で、旧勤労青少年ホームと町民体育館2施設の計画は。
- (2) 当初予算の農林費予算が農道拡幅予算一つとっても少ないと感じる。農林費予算の構成比2割は少なすぎる
- (3) 船岡一円は古くから番水制。兼業形態の現状で、この制度が無くても米作りができるようにならないか。
- (4) (仮称)さくら連絡橋による観光客の動態変化で、商店街の活性化をどうするかの。

答 仙南市町と比較しても少なくはない

- (1) 旧ホームは震災でも被害が無かったので、補強して観光施設に。
- (2) 用排水路の改良や排水機場等管理費の長期負担や仙南市町でも補助事業が多いと評価され、少額予算ではな
- (3) 白石川内親堰から12歳を引いている。10年前番水をやめて流したら下名生まで引けなかった。制度の遵守に努める。
- (4) 商店の買い物マップをPR。消費者ニーズを把握し、商品やサービスの提供を農工商連携で進め、魅力ある商店街に。

予算審査特別委員会

あなたの税金

どのように使われるのか?

3月9日に予算審査特別委員会を設置し、24年度の一般会計、特別会計及び水道事業会計について審査し、3月15日に終了しました。審査内容の一部を紹介します。

歳入

固定資産税減少

質疑 固定資産税が昨年に比べ2千万円近く少ない。その理由は。

答弁 算定基準となる土地の価格が下落しているため。

町民税がほぼ昨年と同じなのは

質疑 昨年度に比べ、個人町民税、法人町民税とも増となっているが、感覚として下がるのではと考えられるが、ほぼ同じに見込んだ理由は。

答弁 特定扶養控除、年少扶養控除の廃止、法人では、景気的には大分順調な推移をしていると判断。

滞納をどの程度に見るか

質疑 住宅使用料で、滞納分の回収はどうなるか。
答弁 滞納繰越分4千656万円の5割を回収したい。

滞納者対応は

質疑 滞納者への対応は。
答弁 差し押さえが22年度89件で、所得税の還付金や給与、不動産の差し押さえ予告を行い、回収効果を上げている。

農業生産対策交付金とは

質疑 東日本大震災農業生産対策交付金650万円とあるが、内容は。
答弁 セシウムの抑制対策事業である。

災害査定・認定はいつか

質疑 小災害についての査定、認定はいつなるのか。
答弁 小災害を含む復興特別交付税関係は、審査が進んでいる。認定は3月下旬の予定で、9億5千万円から10億円近い申請額が調整されている。

たばこ税増額

質疑 たばこを吸う人の減少によって、売り上げも減っているのではと認識するが、たばこ税が増額になっているのはなぜか。
答弁 税率引き上げの時の禁煙者が戻ったとみら

補助金の使い道は

質疑 保育対策等促進事業費補助金の中身は。
答弁 ゆとりの育児支援事業の中で、特定保育と一時保育を実施している事業を対象とする。

町有地の活用は

質疑 行政財産使用とは、どこの土地を、誰に、いくらで使わせているのか。また、契約はどうなっているのか。
答弁 町有地を駐車場として使用。一番大きいところはイオンで、毎年使用許可という形で貸している。



イオンショッピングセンターの駐車場

歳出

コミュニティ助成 増額の理由は

質疑 コミュニティ助成金増額はなぜ。

答弁 これまで世帯数に応じて交付していたものに、敬老会開催、道路愛護事業を統合させ、地域づくりを活用することとしたため増額となった。

調査の進め方は

質疑 スポーツ文化整備可能性調査の進め方は。

答弁 ワークショップ形



楽しみにされている敬老会

事業主体は どこに

式で町民の意見を集約し、職員が一緒に案をつくり、たたき台ができ次第、住民懇談会で町民に説明していきたい。

質疑 テマンド交通の旅客自動車運送事業の主体は町になるのか、商工会なのか。

答弁 商工会に依頼したいと考えている。

町のキャラクターの 愛称と活用方法は

質疑 キャラクターの愛称と活用方法は。

答弁 町民対象に募集をかけ、イベント、マスコ

ミを利用し、柴田町のPRをする。

質疑 県地域衛星通信ネットワークシステムは、今回の大震災で有効に稼働できたのか。

答弁 全く稼働しなかった。これを受け知事が、今後整備する旨を県議会

答弁 できていたので、対応されるものと思う。

滞納整理 委託件数は

質疑 仙南地域広域行政事務組合の滞納整理課に委託している町税の件数は。

答弁 単独年度で30件、2年合めてのものもあるので、トータル57件、3千800万円である。

容器包装プラスチックの 資源化率は

質疑 容器包装プラスチックの資源化率は。

答弁 昨年4月1日から実施したが、当初3カ月

間は6割位で、一時3割位まで落ちたが、最近では5割以上に回復している。

町の除染場所は

質疑 放射能除染施設で、今一番目にやるべきところは、どこと考えているのか。

答弁 3月10日現在0.23マイクロベルトを超えている船岡保育所、第一幼稚園、西船迫保育所、並松公園の4カ所である。

緊急通報システムの 台数は

質疑 老人福祉費の緊急通報システム、障害者更生援護事業費の緊急通報システムをそれぞれ何台予定しているのか。

答弁 老人については8台、障害者は3台予定している。

遊具設置の 基本は

質疑 公園、児童館などの遊具設置の基本的な考



入袋2号公園の遊具

え方は。

答弁 老朽化して撤去したままになっているところもあるが、町内の遊具の調査を実施している。それに基づき、改修できるものについては今年度、計画的に対応する。

保育ママ事業の 進捗は

質疑 家庭的保育の進捗状況は。

答弁 県で研修、講座を開催している。町内で取り組んでいる団体や個人の方々に受講してもらおうよう進めている。

(仮称)子ども総合センターの 設置はいつか

質疑 (仮称)子ども総合センター整備はどこまで

進んでいるのか。

答弁 具体的な調査を平成24年度で行うと位置づけているが、まだ進んでいない。

(仮称)さくら連絡橋の 基本設計はいつ

質疑 23年度繰越になっている(仮称)さくら連絡橋の基本設計はいつ頃になるのか。

答弁 大体、6月頃を目途にしている。

保険証の 交付状況は

質疑 国民健康保険の短期保険証の交付状況は。

答弁 1カ月が63件、3カ月が150件、6カ月が446件となっている。

緊急雇用対応の 中身は

質疑 観光地等整備事業委託料、震災等緊急雇用対応等事業とあるが内容は。

答弁 緊急雇用で終了したものが一方、新たな震災関係の事業を活用する。城址公園整備の1千200万円は全額県負担金の基金活用事業である。

観光客の 受け皿は万全か

質疑 観光客にきちんと答えるだけの受け皿は万全か。

答弁 商工会、商店街の協力。また、おみやげなどについては物産協会とも相談し、出来るものから取り組み万全を期したい。

保健指導員の 訪問戸数は

質疑 保健指導員に、産婦新生児訪問、乳児家庭全戸訪問とあるが、何世帯を回るのか。

答弁 在宅の助産師3名

で150人分を訪問し、町の保健師が170人を回る予定である。

肺炎球菌ワクチン 接種人数は

質疑 肺炎球菌ワクチン接種について24年度は何人を見込んでいるのか。

答弁 847名である。

農地集約は 図られるのか

質疑 集落営農水田担い手対策事業補助とあるが、内容は。

答弁 集落の核となる組織あるいは担い手を育成して農地の集約を図るため、10畝以上の水田を担っている方を対象にコンバイン、直播田植機械等の導入を補助率1/4で支援していく事業である。

鳥獣対策は

質疑 鳥獣被害防止総合対策交付金を活用する考えはないか。

答弁 対策協議会を設置することが前提の交付金



学力向上に挑戦

マンパワーは 大丈夫か

なので、生産組合連合会長を委員に協議会を設置し、取り組んでいきたい。

学力テストを 全校で行う理由は

質疑 全国学力テストを教育委員会が全校で行うとした理由は。

答弁 新しい教育の流れに沿った、最先端の問題

が出題されている。先生方の意識改革を図ることも必要と判断した。

図書館の 利用状況は

質疑 図書館の保有冊数、利用者数、貸出数、利用登録者数は。

答弁 保有冊数2万5千628冊、利用者数は3万4千780人、貸出数8万1千753冊で、利用登録者数は4千306人である。

体育指導員は どうかわかるか

質疑 体育指導員とあるが、スポーツ基本法により、名称変更がされると

聞いているが、本町はいつ条例改正を行うのか。

答弁 スポーツ振興審議会等に諮り、十分熟慮したうえで、6月議会に改正案を出す予定である。

水道の 赤字の原因は

質疑 水道事業収益赤字となっているが、原因は何か。

答弁 大震災で水量も減りが起因している。

特別支援教育支援員の数は 足りているのか

質疑 普通学級で障害を

持っている児童が増えていくと聞くが、支援員の数が足りないのでは。その対策をどう考えるか。

答弁 非常勤ではあるが1名加配される予定である。

障がい児童の集中に 支障はないか

質疑 一つの学校に20名以上も障害のある児童が集中すると、支障は出ないのか。

答弁 たまたま一つの学校に集中しているが、現在のところ、支障はでない。



もっと利用して

介護保険料

平均千円値上げ

介護保険料改定に伴う介護保険条例の一部改正案が提案され、原案のとおり可決しました。これにより、24年度から26年度までの3カ年間の保険料は、現在よりも月平均で千円の値上げとなります。

値上げを抑える仕組みは

質疑 介護保険料の値上げを抑えるため、県の基金を取り崩すことになっている。本町に1千100万円の配分が決められているが、どういう計算からなのか。

答弁 県全体の基金の取り崩し可能額を算出し、その可能額の3分の1（7億9千万円）を市町村に配分する。この額を基に計算し、本町分を決定した。

被災者の減免は

質疑 大震災以降、柴田町に転居した方で介護保

険利用者の減免はどうなっているのか。

答弁 原発関係、震災関係で柴田町に転入手続きをし、被保険者となれば保険料、利用負担の減免の対象となっている。

生活保護者の減免は

質疑 保険料の第1段階の対象者に生活保護を受けている人が含まれている。月500円の負担額となるが、生活保護の支給に反映されるのか。

答弁 介護保険料も経費の中の算定に組み込まれている。

反対討論 広沢 真議員

介護保険ではできる限り利用しやすい制度でなければならぬ。町が努力を怠っているわけではないが、保険料の値上げは容認できない。値上げを抑えるため一般会計からの繰り入れをするなど、さらなる努力を求める。

賛成討論 水戸義裕 議員

3年ごとに見直しの制度。需要の急増と安心を支えるこの制度を必要とする人の多いのも事実。反対しても完全なものができるか疑問。基金等の取り崩しなど基準保険料上昇を千円に抑えた軽減策もあり、やむを得ない。

平成24年度
介護保険特別会計予算
の採決でも討論

介護保険特別会計の当初予算の採決でも、保険料の値上げと低所得者への影響をめぐって、賛成反対討論がありました。

反対討論 広沢 真議員

原案に対して反対

賛成討論 森 淑子 議員
原案に対して賛成



年々充実！ 介護予防推進大会

平成23年度
3月補正予算

平成24年度産米 放射能対策など、
1億3千万円を
増額補正

歳入、歳出とも事業費確定に伴う補正で左表のとおりとなりました。

一般会計では、増額補正の主なものとして、平成24年度産米放射性セシウム吸収抑制対策事業補助、東日本大震災に関する土木施設災害復旧費などが計上され、原案のとおり可決しました。

震災復興事業への国からの交付税は

は対象とならない。

質疑 震災復興事業で町が立て替えている事業費は、国の交付税でくることになっているはずだが、入ってきたのか。

復興事業で町の持ち出しはあるか

質疑 震災復興事業で、町の持ち出し見込みはどれくらいになると考えているのか。

答弁 国費からの支援は9割以上になる。人件費

平成23年度補正予算

(単位：千円)

会計区分	補正額	補正後の額	会計区分	補正額	補正後の額	
一般会計	131,672	14,190,827	収益的収入	—	1,079,695	
特別会計	国民健康保険事業	65,532	4,036,052	収益的支出	△23,361	1,202,666
	公共下水道事業	15,267	2,442,033	資本的収入	—	118,801
	介護保険	△142,179	2,064,203	資本的支出	60	352,543
	後期高齢者医療	△2,003	290,524			

本会議出欠状況・議案等審議結果

●本会議出欠状況

※「○」は出席、「欠」は欠席、「早」は早退、「遅」は遅参を表す。
※議長は予算審査特別委員にはならない。

区分	主な内容	月日	出席者数 人	出欠状況															
				平岡泰雄	佐々木博子	佐々木洋	高橋たし子	安部 俊三	佐々木守	広沢 真	有賀 孝	水戸 義裕	森 淑子	大坂 三男	丹山 彰	星 高郎	加藤 高朗	大沼 博義	白内 惠子
(平成24年) 第1回定例会	平成24年第1回臨時会 本会議	条例・規約変更・補正予算・決議	1.20	17	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	本会議	町政報告、施政方針、一般質問	3.5	17	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		一般質問	3.6	17	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	予算審査特別委員会	一般質問	3.7	17	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		条例・補正予算	3.8	17	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		平成24年度予算上程・総括質疑	3.9	17	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		正副委員長の互選等	3.9	16	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		平成24年度予算審議	3.12	16	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		平成24年度予算審議	3.13	16	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		平成24年度予算審議	3.14	16	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	本会議	平成24年度予算採決、条例	3.15	16	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

●議案等審議結果

※「○」は賛成、「否」は賛成しないことを表す。
※「議」は表決時に議長のため、また「-」は表決時に議場にいないため表決に参加していないことを表す。

区分	件名	議決日	表決者数 人	賛成 人	議決結果	表決状況													
						平岡泰雄	佐々木博子	佐々木洋	高橋たし子	安部 俊三	佐々木守	広沢 真	有賀 孝	水戸 義裕	森 淑子	大坂 三男	丹山 彰	星 高郎	加藤 高朗
(平成24年) 第1回臨時会	柴田町男女共同参画推進条例	1.20	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	大河原町外1市2町保健医療組合規約の変更について	1.20	16	15	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	議案第1号大河原町外1市2町保健医療組合規約の変更についてに対する附帯決議	1.20	16	15	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	平成23年度柴田町一般会計補正予算	1.20	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	平成23年度柴田町公共下水道事業特別会計補正予算	1.20	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	平成23年度柴田町介護保険特別会計補正予算	1.20	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	3.8	16	16	適任	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	3.8	16	16	適任	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	固定資産評価審査委員の選任について	3.8	16	16	適任同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	町道路線の認定について	3.8	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	柴田町と宮城県信用保証協会との損失補償契約に係る回収納付金を受け取る権利の放棄に関する条例	3.8	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	柴田町地区集会所条例の一部を改正する条例	3.8	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	柴田町町税条例の一部を改正する条例	3.8	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
柴田町福祉委員設置条例の一部を改正する条例	3.8	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
柴田町放課後児童クラブ条例の一部を改正する条例	3.8	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
柴田町児童デイサービス施設条例の一部を改正する条例	3.8	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
柴田町敬老給付金等支給条例の一部を改正する条例	3.8	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
柴田町地域活動支援センター条例の一部を改正する条例	3.8	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
柴田町介護保険条例の一部を改正する条例	3.8	16	15	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
柴田町営住宅条例の一部を改正する条例	3.8	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
柴田町水防協議会条例の一部を改正する条例	3.8	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
指定管理者の指定について	3.8	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
23災第11044号外道路災害復旧工事(町道槻木172号線外1路線)請負契約について	3.8	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
平成23年度柴田町一般会計補正予算	3.9	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
平成23年度柴田町国民健康保険事業特別会計補正予算	3.9	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
平成23年度柴田町公共下水道事業特別会計補正予算	3.9	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
平成23年度柴田町介護保険特別会計補正予算	3.9	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
平成23年度柴田町後期高齢者医療特別会計補正予算	3.9	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
平成23年度柴田町水道事業特別会計補正予算	3.9	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
平成24年度柴田町一般会計予算	3.15	16	12	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
平成24年度柴田町国民健康保険事業特別会計予算	3.15	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
平成24年度柴田町公共下水道事業特別会計予算	3.15	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
平成24年度柴田町介護保険特別会計予算	3.15	16	15	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
平成24年度柴田町後期高齢者医療特別会計予算	3.15	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
平成24年度柴田町水道事業特別会計予算	3.15	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
柴田町東日本大震災復興基金条例	3.15	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

質疑 稲作の平成24年度米放射性セシウム吸収抑制対策事業補助として、1千300万円を計上しているが、事業内容を伺う。

答弁 今年の水稲を作付けする前、放射性セシウム抑制のため塩化カリウムを10kgあたり20kg配布し、4月下旬頃まで水田に散布してもらおう事業である。650haほど予定しているが、休耕地、転作田は含まれていない。

稲作の放射能対策は



復旧工事が進む町道槻木179号線

人事案件

○人権擁護委員の推薦に同意

高平和彦氏(新任)
(四日市場字神明)

木島基子氏(再任)
(西船迫二丁目)

○固定資産評価審査委員の選任に同意

井上武夫氏(再任)
(槻木駅西二丁目)

総合体育館建設に向けての積立か

質疑 スポーツ振興基金1千万円を計上しているが、目的は、総合体育館建設に向けての積立なのか。

答弁 一般質問に、総合体育館と本格的な図書館を検討すると答えている。総合体育館建設に向けて頭金があればならないか、積み立てることになった。

住民とともに政策条例を議員提案

心豊かで活力のある社会の実現を目指して

男女共同参画推進条例可決へ

第1回臨時議会 1月20日開催

第1回臨時議会において、「柴田町男女共同参画推進条例」、みやぎ県南中核病院の経営形態見直しによる規約の変更案が提出され、原案のとおり可決されました。

議員提案で政策条例

「柴田町男女共同参画推進条例」可決

柴田町は、平成10年に男女共同参画都市を宣言し、事業を進めてきました。

平成22年1月に住民を交えての「柴田町男女共同参画推進条例を考える会」が組織され、条例素案の検討が始まりました。考える会では、2年の歳月をかけ条例素案をまとめ、町民説明会を経て、平成23年12月6日に議長に条例素案を提出。

議員全員協議会で検討を重ね、議員提案で議会上程しました。

1月20日に行われた臨時議会で、全会一致で原案のとおり可決しました。



平成8年には女性模擬議会を開催

条例制定までの経緯

- 平成6年 企画調整課に女性政策係を設置
- 平成8年 「しばた女性施策推進基本計画(しばた女性プラン)」策定
 - ・女性模擬議会を開催
 - ・しばた女性史編さん委員会設置
- 平成10年 男女共同参画都市宣言
- 平成11年 小中学校・公立幼稚園における男女混合名簿の実施
 - 平成6年度より毎年度「男女共同参画フォーラム」を開催—
- 平成22年 「柴田町男女共同参画推進条例を考える会」設立
- 平成24年 条例案可決 4月1日より施行

基本理念

- (1) 男女の人権の尊重
- (2) 暴力の根絶
- (3) 社会制度又は慣行についての配慮
- (4) 共同参画の機会確保
- (5) 家庭生活及びその他の活動の両立
- (6) 性と生殖に関する健康と権利の確保
- (7) 国際社会との協調

柴田町男女共同参画推進条例(抜粋)

＝前文＝

すべての人が、性別や年齢にかかわらず個人として尊重され、自らの意思により個性と能力を発揮できる社会を実現することは、私たち住民の願いです。

柴田町では、男女が共に自立し、あらゆる分野に参画できるまちづくりを目指し、平成10年に男女共同参画都市を宣言しました。(中略)

私たちは男女が平等な社会の実現を目指し、町と住民が互いに協力しながら男女共同参画を推進するため、住民の参画によりこの条例を制定します。

※この条例は次の7章で構成されています。

- 第1章 総則
- 第2章 基本理念
- 第3章 町、住民、事業者及び教育関係者の責務
- 第4章 男女共同参画の推進を阻害する行為の制限
- 第5章 男女共同参画を推進するための基本的施策
- 第6章 柴田町男女共同参画審議会
- 第7章 雑則



条例づくり作業風景 船迫生涯学習センターにて 平成22年7月17日

みやぎ県南中核病院の経営改善へ

みやぎ県南中核病院は、平成24年度から地方公営企業法を全部適用し、経営の責任者を外部からも登用し、経営体を大河原町外1市2町保険医療組合から企業団へ変更する規約変更を構成市町に提案。柴田町議会では附帯決議を添えて可決しました。

反対討論
広沢 真議員

原案に対して反対

賛成討論
白内恵美子議員

原案に対して賛成

柴田町議会の附帯決議

- 1、良質、効率的な医療の提供と構成市町の負担金に安易に依存せず健全な病院経営を目指すこと。
- 2、公立刈田綜合病院との連携及び協力的体制強化。
- 3、健康・医療・介護等の各分野の連携を強化し、諸事業が推進されること。

一般質問

ズバリ



あなたにかわって

ここが聞きたい

Q & A



一般質問は3月5日から7日までの3日間で行われ、14人の議員が質問しました。質問と答弁の内容について、その一部を掲載します。答弁者は、滝口町長、平間副町長、阿部教育長及び各担当課長等です。



平間奈緒美議員

Q 放射線量が高い
児童施設の
除染実施を

A 今後放射線量の低減化を図るため
町独自の対策を新年度から行う



元気に遊ぶ子どもたち

問 宮城県では県内9市町を汚染状況重点調査地域に指定。指定地域の詳細な線量測定をした上で、4月から除染実施すると発表している。柴田町はなぜ指定されなかったのか。

答 柴田町は文部科学省の航空機モニタリング調査で毎時0・23マイクロシーベルト以下であったため、条件を満たさず汚染状況重点調査地域に指定されなかった。マイクロロスポットの測定値が上回る地点はあるが、面的な広がりには確認されていない。今後基準に従って申請をしていく。

問 学校給食や保育所の給食食材を測定しているが、結果や周知方法は。

答 測定結果は1ヶ々単位の数値で、随時、知らせている。さらに保護者の方に安心していただくよう、お知らせの出し方については改善していく。

問 柴田町の空間放射線量は指標値以下だが、より一層安全性を高めるため、子どもたちが長く滞在する場所と比較的線量値が高いところは除染を実施すべきではないか。

答 毎時0・23マイクロシーベルトを超えるホットスポット的な地点について、今後放射線量の低減化を図る町独自の対策を新年度から講じていく。

問 除染の優先順位は。

答 小さなお子さんがいる施設を最優先と考えている。



大坂三男 議員

Q 「総合子ども園」と子ども医療費助成について

A 入院費自己負担の無料対象を中学生までに拡大



子どもたちが安心して医療が受けられるように

問 国の子育て支援制度が大幅に変わる。町は新年度事業で「子ども総合センター構想」の策定を掲げているが内容は、

答 子育て支援の拠点施設として大型の児童センターと子育て支援センターの複合施設を平成25年度以降に整備する構想。

問 子育て支援事業にNPO等の民間活力導入を。

答 専門的な技術や知識を持つ民間活力の導入により費用対効果や効率性が認められる場合や、よ

り身近で地域に密着したNPO法人や住民団体の活用で協働や住民参加が達成され、町民サービスが向上する場合に民間委託制度を導入する。

問 子ども医療費無料の対象年齢を拡大すべきでは。

答 子育て家庭の医療費にかかる経済的負担を軽減するため医療費助成の拡大は重要。平成24年度は10月から入院費の無料対象を現在の小学生までから中学生までに拡大し、

通院費についても今後前向きに取り組む。

問 三名生、西住、柴田の幼児型児童館を25年度末に廃止するが、その後の対応は。

答 三名生、西住の入所対象児童は町内幼稚園に入園し、柴田児童館は同館を民間委託する私立幼稚園に入園していただく。保育料は就園奨励費補助金の活用で保護者の負担はほとんど増えない。

去年10月29日町内6カ所で議会懇談会を開催した。議会としても町民の意見を聞く貴重な機会であり、それを町政に反映させるのが議会の重要な役割である。特に関心を持った意見に基づき質問したい。

「さくら連絡橋をつくる」という話を聞いた。年、10日間ぐらいに何億円もかけるより、別に使った方がいいのではないか」という意見があった。(船

迫生涯学習センター)

町からの回答は「桜の季節だけでも20万人を超える来訪者があり、全国的に認知されている船岡城址公園と白石川の桜を中心に、船岡の市街地に新たなにぎわいを取り戻し、住んで心地よい、歩いて楽しいまちづくりが目標です」であった。

問 「船岡の市街地に新たなにぎわいを取り戻し」とあるが、具体的な施策はどういうものか。

答 新栄地区に3つの公園を整備し、城址公園、

Q 「さくら連絡橋」より別にお金を使った方がいいのではないか



舟山 彰 議員

A 歩いて楽しいまちづくりが目標



展望デッキに続くきれいな遊歩道

商店街等と1つの回遊ルートで結ぶ。

問 「歩いて楽しいまちづくり」とあるが、町民からすればまだまだ危険な道路が多いのに、観光客のための道路を優先するのかと考えてしまうと、思うが、いかがか。

答 花回廊を整備することで、町民の健康づくりのウォーキングコースにもなる。



佐久間光洋 議員

Q 総務省が進める
公会計への対応は
進んでいるか

A 年次計画で整備していく



財政関係の資料を整備して公開

問 総務省は、自治体の公会計への整備を進めている。貸借対照表などの作成と情報の開示を求めているが、柴田町はどうか対応するのか。

答 総務省方式改定モデルに基づき、ホームページで公表しているが、財務評価等が完全ではない。予算措置が伴うので、今後年次計画において整備し、正確な財産管理に努める。

問 これから完全な形で公開に向けていくという

答 5年間ぐらいかけて完全な姿にしたい。

問 固定資産の台帳は整備されているか。

答 町の財政としての固定資産台帳は整備の途中。行政財産の目録はあるが、完全ではない。普通財産は売買や賃貸があるのでそれを先に評価したい。

問 行政財産にはどのような種類のものがあるか。

答 一般的な行政財産は土地と建物、これが全体の9割程度になる。

問 柴田町の財産総額ほどの程度になるのか。

答 平成21年度の総資産は464億円。町が公開しているバランスシートに計上したもので、有形固定資産として項目が並んでいる、一覧表も公開対象にする。

問 生涯教育総合運動場の用地取得の時期、目的、価格、面積を伺う。

答 昭和48年農村総合整備

昨年の議会一般質問の答弁では、総合体育館建設は旧トツコン工場跡地との意欲が見てとれる。総合体育館を建設するのであれば、新たに用地を取得して建設するよりは計画がまだ実施に至っていない「生涯教育総合運動場」に建設すべきではないかという考えから伺う。

Q 総合体育館は
生涯教育総合運動場に
建設を



高橋たい子 議員

A 体育施設整備基本計画構想
のなかで検討

問 平成10年に生涯教育総合運動場の整備基本構想が策定されたが、その内容と計画をどのように進めるのか。

答 運動場、体育館、休憩施設等壮大な構想である。経済状況の激変、町財政も厳しくなり計画が進展しなかった。テニス

備モデル事業で、町民の健康づくりや中核的スポーツ活動拠点施設用地として計画され、昭和55年に7万8千254平方メートルを8千800万円取得。



整備が期待される生涯教育総合運動場
(農村環境改善センター脇)

コート整備以外の計画の具現化は今のところ見通しが立っていないが、今年体育施設整備基本計画構想を策定するなかで、今後のあり方も含めて検討する。

問 不二トツコン跡地に総合体育館を建設するとの意欲が見てとれるか。

答 コンパクトシティ構想の具体化の一環として、「スポーツ・文化ゾーン整備可能性調査」を実施し検討する。



水戸義裕 議員

Q 計画後数十年経過の
道路整備の
働きかけは

A 整備手法が変わった時代の
対応をする



新栄通線から東船岡駅方面を望む

道路は、日常生活に密着した生活基盤であり、幹線道路の整備は非常に重要だ。近年、全国で未整備の都市計画道路の見直しが進められているが、本町の都市計画道路の状況について伺う。

問 本町の都市計画道路はどのような状況か。

答 16路線で改良済み延長27.31km、未改良延長は7.15kmの状況。

問 計画路線の新栄通線は大沼通線から阿武急の陸橋まで、さらに12A区

經由12B区で旧四号線に。これはいつの計画か。

答 昭和37年で、50年前の都市計画路線である。

問 計画以来50年経過したが、都市計画とは、誰もが必要と認めたものである。計画促進を働きかける考えはあるのか。

答 昔は土地区画整理事業などで整備されたが、今は社会资本整備総合交付金という名のもとで、単に道路だけの計画では認められず、道路周辺の計画についての検証を受

けないと事業採択はされない整備手法が変わった。この交付金でないと公園も道路も下水道もできない時代。都市計画道路をつくるには、周辺に住宅街や公共施設などのパッケージ計画であれば、新栄通線の整備も可能。町の未来をどうするか知恵の出し方で国県が採択する時代。東船岡駅までは市街化で町並み整備した方がいいと考えている。

第3次柴田町情報化計画には、「将来、業務機能が標準化された自治体クラウドの導入を検討していく」と明記されている。現行システムが最適化されているという思い込みを捨て、自治体クラウドを導入すべきではないか。山形県置賜地域の3市4町では、順次クラウドを導入しており、運用経費の4割削減が見込まれている。

問 仙南2市7町において自治体クラウドの共同化を検討すべきでは。

答 サーバーを業者に預けている町や、クラウドを必要としない市もあり、考え方に大きな違いがある。宮城県が進める体制の中で参加したい。

問 柴田町単独でも導入すべきでは。

答 自治体クラウドは共同利用によるコスト削減が主であり、単独での導入は困難と思われる。

問 町の過去の情報システム運用経費は。

答 平成21年度が約1億

5千300万円、22年度が1億6千万円、23年度が1億9千200万円。

問 市町村がクラウドを共同で行うメリットは。

答 経費削減、職員の削減に結びつく。

問 業務の効率化や住民サービスの向上にもつながる。先進自治体での研修を受講すべきでは。

答 全課の情報推進委員を対象に研修の機会を設ける計画を立てている。

Q 自治体クラウドの
導入を

A 宮城県が進める体制の中で
参加したい



白内恵美子 議員



どうなる？ 自治体クラウドの導入



森 淑子 議員

Q まちづくり基本条例をどう生かすか

A 推進センターを窓口にして実践していく



まちづくり推進センターの活用

問 住民自治によるまちづくり基本条例が施行されて2年になるが、条例のことがよく分からないとの声が聞こえる。「まちづくり提案制度」「まちづくり推進センター」「住民投票制度」が機能するようになれば生活と結びつけて考えられるようになるのではないかと。提案制度には応募があったか。

答 意見提案が10件、実践提案が2件あったがどれも不採択になった。課

題解決に時間を要するもの、現状把握が足りないもの、町の権限外の提案などだった。センターとしての調整や助言不足がこのような結果となった。

問 不採択になった提案の中にも見るべきものがある。これからは相談に乗っていくことはあるか。

答 審査項目を点数制で審査している。アドバイスして再提出ということもある。

問 「推進センター」が活用されるための方策は。

答 開かれたセンター運営の原点に立ち返りながら、NPO法人との協働運営の可能性や町内外の各種団体とのネットワークの構築を検討する。

問 まちづくり活動に係る調査研究とは。

答 協働を実践するための指針を策定している。まちづくり基本条例の解説書と合わせて周知していく。住民投票制度の設計も現在進めている。



佐々木守 議員

Q 平成24年度の予算の特色は

A 最大規模の投資事業額を計上



着々と建設が進む北船岡町営住宅2号棟

問 24年度の予算の特色は何か。

答 継続事業となる学校施設整備事業、町営住宅建設事業などを完結させるとともに、社会資本整備総合交付金事業などの戦略的事業へ本格的な取り組みを始めていく。ここ数年では最大規模の投資事業額を計上しているが、総合計画にも沿った事業展開であり、投資に係る起債額の増加は一时的なものである。震災からの復旧・復興を最優先

に、震災後を見据え圏域の先導役を担える町へ進化を遂げたい。そのため予算編成と自負している。

問 震災による影響で、24年度町税収入はどれくらい減収になると予想しているのか。

答 平成24年度は大震災の被害により企業経営の悪化や倒産等による個人所得の減収や、震災特別法で住宅や家財等に被害を受けた場合は雑損控除が受けられることで、個

人住民税に減収の影響が出るものと考えている。固定資産税は、震災の影響は少ないが、土地や家屋評価の下落傾向が続いていることから減少すると考え、前年度比7千454万6千円を減額し、当初の徴税は41億3千75万8千円を計上した。



安部俊三 議員

Q 中学校での武道必修化
危険回避への手だてを

A 競技性より伝統や礼節を重視した
授業づくりに取り組む



稽古といえども気を抜かず(船岡中柔道部)

問 安全な授業を行うため、危険回避へ万全の手だてを講ずる必要があるが、どのような対応を考えているのか。

答 中学校の授業は、本格的な柔道を目指す部活動とは目的が違うので、

1・2年生は今年度から男女とも武道が必修化となる。本町3中学校は、柔道を選択する。柔道は、事故率が高いが安全対策が徹底されていない現状と言われている。

問 地域指導者の活用を考えているか。

答 仙台大学や町柔道協会から協力を得るなど、地域の人材を活用した柔道の安全対策を、必要に応じて検討する。

競技性より伝統や礼節を重視した授業づくりを行う。特に、投げ技は頭部や首への負担が強いとされているので、受け身指導を十分行うことや、生徒の経験や体力の実態に応じた指導を行い、安全対策に努める。

問 町独自で教員に対し柔道の指導研修を行う考えはないか。

答 仙台大学や町柔道協会の協力を得て、夏休み期間など利用し、体育教師の指導研修会等を開催する予定にしている。

問 柔道授業を行う際、複数指導者で行うことは考えているか。

答 学校としても複数教員で、指導を行いたいと考えている。

昨年は大震災、津波、放射能災害など災害が多い年だったが、台風15号による水害も大きな被害をもたらした。町ではこれまで冠水災害が起きる場所へのポンプ設置などに対応してきたが、保水能力を持つ水田面積の減少で水害が起きる要因が増している。

問 今後、地球温暖化で台風の大型化、降雨量の増加により、これまでの冠水対策では間に合わないのではないか。

答 町でも雨水調整機能を持つ水田面積の減少と気象変動による集中豪雨など、時間降雨量が10ミリの超えると被害が出始める。

問 本格的にまちづくりとして調整池の設置や排水機場の改良など雨水排水対策を考えることが必要ではないか。

答 現在西住地区で総予算63億円の鷺沼排水整備事業が進んでいるが、雨水対策は多額の費用がかり、国や県の支援も必

Q 突然の大雨災害にも
想定外にならない
対策を



広沢 真 議員

A 国・県にも支援を求めながら
対策を進めたい



消防団による懸命の排水作業

要で時間がかかる。西住、槻木、船岡と進めていきたいと考えているが、これから国や県の支援を求めていくため実現には時間がかかる。

問 対策を進めるまでの間に水害被害に対する支援制度を考えるべきではないか。

答 これまで水害被害の支援制度は議論にならなかったが、震災の個人住宅一部損壊への支援もできたので今後検討したい。



星 吉郎 議員

Q 冠水対策と側溝整備を

A 四日市場排水機場を十分活用していく



稲荷山用水の水をどう排水するかが決め手

問 四日市場1号線の整備はまだ完了していないが、今後どのように整備されるのか。

答 J R踏切30ヶ手前までの370ヶが完了し、93ヶの進捗率となっている。平成25年度までの工期を1年前倒しして、平成24年度中に完成させる予定。概木下町の一部にまだ舗装されていない砂利道がある。舗装の計画はどのようなになっているのか。

答 狭あい道路の整備で予算化している。地元で説明会を行ったが、道路幅員が4ヶないところがあるため、補正を行い側溝を整備し、舗装までしたい。

問 概木地区の冠水対策に関し、雨水を排水路で稲荷山用水路に流すだけでなく、別ルートでの排水の確保はできないか。

答 物理的に難しいものは、今調査している。別ルートについてはコンサルタントの回答を待つて進めていきたい。

問 山崎製パン周辺の、雨水路整備計画はどのようになっているのか。

答 山崎製パンからの北に向かう土側溝に蓋をかけ整備してきた。四日市場排水機場を活用し、水門のマネジメントもしっかりしていく。

問 桜まつりに向け改善対策等は整っているのか。

答 誘導・案内板はバイパス2カ所、城址公園内5カ所に設置。渋滞緩和で帰りは南側道路を仙台大学方面へ誘導。柴田大橋や駐車場等に連絡員を配置。送迎はシャトルバスを運行。また、仮設トイレ等を準備している。

問 ごみ等の対処法は。

答 場所を奥に移動するが、看板設置で対応。

問 観光客増を見越し案内所や案内人が必要では。

答 警備本部を案内所にし、案内人は職員や消防団等が行う。

問 城址公園の左斜面は、4月まで完成できるのか。

答 完成は難しい状況。

問 目隠し等の考えは。

答 キャッチフレーズの横断幕等を利用。

問 園内側溝の整備は。

答 横断暗渠の高圧洗浄、集水枘の蓋やスクリーン、ごみ止めの設置を進める。

問 平和塔整備について、遺族会との話し合いは。

答 修復計画は進んでお

らず、話し合いの段階。

問 町に所有移行できるか。また募金活動など。

答 今後の話し合いの場で相談したい。

問 観音像や灯笼整備は。

答 土台腐食部分の補修を検討、清掃も行う。

問 城址公園北入口までの歩道延長整備の進展は。

答 新年度で整備を実施。

問 町施設が休館日も、園内施設は使用可能に。

答 観光物産協会と協議、使用できるようにしたい。

Q 桜まつり開催に向け整備は整っているのか



佐々木裕子 議員

A 観光の基本であるおもてなしの心で準備中



リニューアルされた観光案内看板

問 現在、柴田町の防災会議の委員には、女性が登用されているのか。

答 現在、柴田町の防災会議の委員には、女性が登用されているのか。

問 防災会議のメンバーには女性が入っていない。今後、入れる考えはあるのか。

答 防災会議のことは防災会議条例に定めている。この中に、町長が職員のうちから指名する者という規定がある。その中で女性のメンバーを検討していきたい。

問 災害時の緊急物資の中に女性や子ども、高齢者、障がい者に配慮した物資は備蓄されているのか。

答 現在15種類の物資を備蓄しているが、女性や子ども、高齢者、障がい者に配慮した物資は配備していない。

今後、災害が発生した場合、福祉・介護施設と連携し、各施設で備蓄



有賀光子 議員

Q 女性の視点からの防災について

A 防災会議に女性を登用していく



女性の声を防災対策に(平成 20 年の町防災会議)

している物資を確保していく。

問 防災教育を充実させ、災害時の地域の窓口となる各小中学校に防災担当職員を配置すべきでは。

答 県教育委員会では、防災教育の人材基盤整備を図るため、24年4月から全公立学校に防災主任を置くこととした。柴田町も4月から、各小学校に新たに防災主任を配置する予定である。

掲載した質問のほかに、次の項目がありました。

舟山 彰 議員

問 本当に町の震災対策と雨水対策は進んでいるのか。

答 各種の震災対策は実行しているし、今後とも冠水被害の解消に努めていく。

佐久間光洋 議員

問 平成 24 年度から、武道が必修となる。生徒の安全性確保は十分になされているか。

答 生徒の経験や体力に応じて段階を踏まえた指導を行い、安全対策に努力していく。

高橋たい子 議員

問 「農地・水保全管理支払交付金事業」の説明会の回数と、取り組む集落数は。

答 13 集落で延べ 20 回開催し、12 集落で取り組むことになった。

白内恵美子 議員

問 地場産農産物の放射能測定は測定下限値を下げ、住民に分かりやすい結果の公表を。

答 県は 4 月から測定下限値を 10 ベクレルに下げ、50 ベクレルを基準に公表すること。

問 地域から要望の出ている、西住小学校の山側に冠水時の避難ルートの確保を。

答 西住小学校は水害時の避難所に指定しておらず、通学路確保の観点から検討したい。

問 幼児保育型児童館廃止後は、私立幼稚園送迎バス利用料の全員分を町負担とすべきでは。

答 私立幼稚園だけを負担するのがいいのか、全体的な子育て支援政策の中で検討したい。

佐々木 守 議員

問 「地域循環型経済の推進」において、新しい企業誘致は計画しているのか。

答 船岡工業団地内に新たにリサイクル企業の進出が決定し、6 月に本格操業を開始する。

星 吉郎 議員

問 阿武隈川河川敷の農地汚染状況は。

答 昨年 12 月に大根を調査したところ、基準値以下だった。

佐々木裕子 議員

問 通学・生活路、公園等は暗すぎる。寄贈された LED 灯はどこに活用、整備する考えか。

答 劣化した防犯灯の切りかえや、幹線道路、学校周辺の安全性向上を最優先に活用を図る。

有賀光子 議員

問 乳幼児医療費助成の対象を入院費同様、通院費も中学校就学前まで拡大する考えはないか。

答 24 年 10 月から、入院費は中学生まで無料にする。通院費は 25 年度以降前向きに取り組む。

常任委員会レポート

各常任委員会は年4回各課の仕事を調査しています。

総務

■ 調査日 平成24年2月2日・3日
 ■ 調査内容

- ・ 東日本大震災の検証と今後の対応策
- ・ 住民自治によるまちづくり基本条例に関連した各種活動状況
 (審議会及び推進センター等)
- ・ 第27区集会所の管理状況
- ・ 槻木事務所の管理状況

自主防災組織活動に自ら参加しやすい環境づくりを

《総務課》

町では東日本大震災の検証を行い、自主防災組織に対して、防災備品の追加配備や備蓄用支援助物資の配布など、ハード面から充実に図っている。今後は、行政からの正確かつ迅速な防災情報の提供、及び町民が自主防災組織活動に自ら参加しやすい環境づくりを整えるなど、ソフト面からの充実に努めること。

《まちづくり政策課》

「柴田町住民自治によるまちづくり基本条例」については、平成22年4月1日施行され、今春で2年が経過する。今後、当該条例に関連する地域計画づくりを含めた各種の活動が円滑に機能するためには、まちづくり政策課のみで対応するには限界があり、全職員の協力が必要であり、認識を共有すべきである。

文教厚生

■ 調査日 平成24年1月26日・27日
 ■ 調査内容

- ・ 第5期介護保険事業計画
- ・ 災害時要援護者登録名簿の利用状況
- ・ 各生涯学習センターの管理状況
- ・ 農村環境改善センターの管理状況

真に支援の必要な要援護者が漏れることのない支援体制を

《福祉課》

災害時要援護者名簿の整備については、真に支援の必要な要援護者が漏れることのない支援体制をとれる手法を検討し、必要に応じて手法や手段を改善しながら名簿の整理を進め、災害に備えること。

《生涯学習課》

生涯学習センターでは各々主催事業(講座も含む)を開催しているが、センター利用者の意見を反映した運営や事業のあり方の推進を図ること。また、時代に即した事業も組み入れて、これまで利用してこなかった住民に配慮した新規事業も検討すること。また貸館業務にも気配りをしながら運営を図ること。

農村環境改善センター駐車場付近の破損した側溝を放置せず修繕工事を行うこと。

産業建設

■ 調査日 平成24年1月23日・25日
 ■ 調査内容

- ・ 平成24年しばた桜まつり
- ・ 船岡城址公園内案内板の新設
- ・ 畑の遊休・未利用地の解消対策
- ・ 議会懇談会で町民から寄せられた現場視察
- 四日市場地内用水路分水門設置工事
- 町道四日市場1号線・富沢16号線道路改良工事
- 西住地区の水害冠水箇所
- 平成23年台風15号による被害状況

遊休農地の復元に抜本的な対策を

《商工観光課》

平成24年の桜まつり実施については、次の事項について検討すること。

- ・ 他市町村から訪れる観光客のために、槻木白幡橋及び県道52号巨理村田線から桜まつり会場までの誘導看板の設置。
- ・ 白石川堤付近に仮設トイレの増設、それに伴う案内看板の設置。

《農業委員会》

マメ科の植物である「ヘアリーベッチ」を利用して遊休農地の解消対策を実施しているが、抜本的に農地として復元できる可能性を追求すべきである。

《都市建設課》

四日市場地内用水路分水門設置工事は、梅雨の前に工事が完了するよう努めること。

あなたの一言



いなり ゆうこ
稲荷 祐子 さん
(船岡字若葉町在住)

●柴田町に住んで感じたこと

10年前に白石から柴田にきました。交通の便もよく、一年を通して天候もおだやかで住みやすい町だと感じました。

り組んでほしいです。地域住民が主体となり、地域を盛り上げていける町にしてほしいと思います。

●柴田町の好きな風景は

白石川沿いの一目千本桜はもちろんですが、太陽の村からの四季折々の景色も見ごたえがあり大好きです。

●議会だよりを読んでいますか

読んでいますが、これからは柴田町のことについてもっと深く理解するために、詳しく読みたいと思います。

●町に望むことは

震災により、地域の絆の重要性が高まったと思いますので、震災にも強い地域づくりに取り

●議会・議員に何を望みますか

地域住民に近い存在として、地域課題と一緒に考え、より一層暮らしやすい柴田町になることを期待しています。

未来へ向けて

編集後記

新緑が目に見え、鮮やかな季節となりました。早いもので、あの大震災から1年が過ぎ、復興整備も順調に進んでいるところです。

今年は、

しばた桜まつりが開催となり、城址公園は整備がなされ、新たに生まれ変わった姿で皆様を迎えました。まつり期間中は大勢の観光客で賑わい、また初のさくらマラソンも行われたことでより一層の賑わいを見せていました。

広報も昨年、特別委員会から常任委員会へと変わり、住民の皆様にはさらに、わかりやすく・読みやすい議会だよりをお届けできるよう努めてまいります。多くの方に読んでいただくことが何よりも励みとなりますので皆様、愛読のほど、宜しくお願い申し上げます。

議会広報常任委員 佐々木裕子



ぜひ、議会の傍聴を!!

お待ちしております!

第2回定例会は

6月11日(月) 午前9時30分開会予定

一般質問は

6月11日(月)・12日(火)・13日(水)の予定

※詳しくは町議会事務局(☎55-2136)へお問い合わせ下さい。

町ホームページ 本会議審議等結果を掲載
各種会議の出欠状況

町ホームページ内、「行政・まちづくり」の中の「町議会 議会だより」「議会のうごき」に、委員会・全員協議会の出欠状況もあわせて掲載しています。

柴田町のホームページ
<http://www.town.shibata.miyagi.jp>